

平成 29 年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (京都市立 待賢 幼稚園)

1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実 ・幼児が十分に遊ぶ中で、探究する力を育むための重層的な環境構成のあり方を考え、子どもの姿から日々の保育を見直す。 * 安心、安全、主体性を重視した園の環境が生かされる保育環境づくり ・計画性をもった保育の取組と園行事の精選 * ねらいを明確にした週案の作成と園行事の見直し		
(取組結果を検証する) 各種指標 ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」		
各種指標結果 (1 回目) ・幼児の遊ぶ姿の変容 (週案の反省、評価の記述・事例検討から) ・アンケート結果「93%」		
自己評価	分析 (成果と課題) ・研究主題にある「重層的な環境構成のあり方」を考えていくことは、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・子どもたちの安心感が、主体的に遊び込める保育になっている。探究する力を育むための重層的な環境構成のあり方については、2 学期以降視点を定めて取り組んでいく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・市立幼稚園では、支援の必要な子どもや他園で不調をきたした子ども等の受け入れを積極的に行い、公教育としての役割をしっかりと果たしている。 ・「子ども・子育て支援新制度」以降 18 時までの預かり保育が導入され、幼稚園の多忙さを感じる。もっと各方面に現状を知ってもらう必要がある。	
	評価日 平成 29 年 9 月 20 日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2 回目) ・幼児の遊ぶ姿の変容 (週案の反省、評価の記述・事例検討から) ・アンケート結果「98%」		
自己評価	分析 (成果と課題) ・生活に根差した保育を通して、主体的に遊び込む子どもの姿に変容が見られてきた。 ・保護者にも幼児期の遊びの大事さが伝わってきている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・保育の根幹であるため、引き続き園内研修の充実と関連させて次年度も取り組む。 ・教員の意識で保育が改善しつつあることは大きい。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・園内研修や研究は、保育の質を高めていくために重要であることがわかった。 ・幼稚園を知ってもらう上でも、様々な場で実践事例が紹介できたことはよかった。 ・今後も参観の機会あるごとに、幼稚園に行きたいと思う。	
	評価日 平成30年2月22日	評価者 学校運営協議会
2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点 ・接続カリキュラム作成を意識した年間交流計画の作成 ・通園区域内にある小(中)学校への保育公開及び合同研修 ・「親子で絵本！」の取組の定着		
(取組結果を検証する) 各種指標 ・交流の事前・事例検討 ・公開保育及び合同研修の回数 ・「親子で絵本！」のノート活用度 アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめていますか」		
各種指標結果(1回目) ・交流の年間計画実施率80% ・小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続 ・「親子で絵本！」のノート活用率100%		
自己評価	分析(成果と課題) ・年間計画を立てて、見通しをもって取り組むことができた。 ・読書については、園全体で継続して取り組んでおり、活用率は100%になった。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・1学期は交流がほとんど実施されていないため、次年度に向け計画していく。 ・親子で100冊絵本読書をめざし、保護者同士で“おすすめ絵本！”を紹介しながら楽しんで取り組めるようにする。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・市立幼稚園は、地域と共に歩んでいる小学校(中学校)とさらに繋がっていくためにも、出来得る交流は推し進めていってほしい。 ・小学校で使用している100冊読書ノートを公立幼稚園でも活用していることは、幼小が繋がっていく上での良い取組である。	
	評価日 平成29年9月20日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果(2回目) ・交流の年間計画実施率100% ・「親子で絵本！」のノート活用率100%		
自己評価	分析(成果と課題) ・幼小連携講座の研修が、小学校の先生に幼稚園を知ってもらうよい機会となった。 ・幼小交流について、さらに検討を重ねていきたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・保護者に幼小交流への意識が高まった。 ・幼小交流を受け入れてもらえる近隣小学校を増やしたい。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもが安心して入学していくためにも、地域にある小学校との交流は大事である。 ・幼小接続をめざした取組はすぐにできるものでないため、焦らず取り組んでほしい。 ・幼稚園のPTA役員経験者が、小学校でも協力することがあり大変心強い。	
	評価日 平成30年2月22日	評価者 学校運営協議会
3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む 心と体・生活習慣 ・年齢にふさわしい生活習慣の定着に向けた環境づくりと保護者との連携・啓発 ＊「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、テレビ・ゲーム（スマホ）等の依存に向けた啓発 ・運動遊びを取り入れた園の環境を生かした保育計画		
（取組結果を検証する）各種指標 ・アンケート項目 「年齢にふさわしい生活習慣が身に付きましたか」 「運動遊びを通して、体力がついてきていると思いますか」 ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価の記述。		
各種指標結果（1回目） ・生活習慣が身に付いてきている83％ ・体を動かして遊ぶことが好き90％ ・実施後の週案の見直し。ほぼ毎日何らかの「運動遊び」の活動あり		
自己評価	分析（成果と課題） ・生活習慣の定着に関しては課題があり、保護者の評価は厳しい。 ・幼児期は、体を動かすことで心も動くことが多くあるため、運動を取り入れた保育が週案に記載されている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・早寝・早起き・朝ごはんの定着と、十分な運動の推進を家庭に啓発する。 ・運動をともなう活動を引続き週案に明確化して取り組む。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・長時間預かり保育の子どもが増えてきている現状から考え、幼稚園が家庭と共に連携しながら果たしていくべき役割がある。また、幼稚園の抱える課題も大きくなっている。 ・子育て支援事業の一つである「ひよっ子クラブ」への参加者に向けて、先輩ママとして安心感につながる子育てサポートをしていきたい。	
	評価日 平成29年9月20日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・生活習慣が身に付いてきている78％ ・体を動かして遊ぶことが好き100％		

自己評価	分析（成果と課題） ・子どもの成長に伴い，体を動かして遊ぶことがどの子どもも確実に好きになっている。 ・園内環境と共に，運動会やマラソン等の行事と関連した保育によるものと思われる。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・生活習慣の確立は，家庭とより連携し，保護者啓発と園児への指導を行っていく。 ・運動を取り入れた保育は，引き続き取り組む。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・就労保護者の増加が，子育て意識の低下につながらないように働くかけてほしい。 ・地域の中で子育てママが孤立しないように，園と連携していきたい。 ・子育て支援では，今後も子育て先輩ママとして，地域やOBが協力していきたい。	
	評価日 平成30年2月22日	評価者 学校運営協議会
4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する 信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え		
・安心して園生活を送るための教師との信頼関係づくり ・発達に応じた友達との人間関係づくり ・自信と自立心を高めるための自分でできる喜びを味わわせる援助		
（取組結果を検証する）各種指標 ・アンケート項目 「幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」 「仲の良い友だちがいますか」 「安心して，自信をもって園生活を送っていますか」		
各種指標結果（1回目） ・信頼度91% ・4歳児91% 5歳児92% ・安心・自信91%		
自己評価	分析（成果と課題） ・アンケート結果以上に教師との信頼関係がとれており，園では喜んで生活している。 ・一人遊びが多い子どもの場合，個々の発達段階に応じて友達関係ができれば始めるので，心配しないよう保護者へ啓発していくことが大切である。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・園内研修等により人間関係の育ちを学び合い，幼児の発達の過程を意識して見ていく。 ・学級懇談会等を活用して，幼児の発達の道筋を保護者に啓発していく必要がある。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子育てに不安を抱える母親が多い現状から考え，母親の安心感につながる幼児期の子どもの成長・発達の道筋がわかる子育て支援をしてほしい。 ・ほとんどの家庭では，家に帰ってから子どもが群れて遊べる環境にはない。幼稚園という場合は，人間関係の育ちをつくる上で大変重要な場である。	
	評価日 平成29年9月20日	評価者 学校運営協議会

各種指標結果（２回目）		
・信頼度 95% ・４歳児 100% ５歳児 96% ・安心・自信 98%		
自己評価	分析（成果と課題） ・子どもの成長に伴って人間関係が育ってきていることがわかる。 ・個別の育ちをしっかりと見取り，一人一人の子どもにあった指導が必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・次年度も保育の根幹である人間関係づくりに力点を置いて取り組む。 ・子ども一人一人のよさや特性が生かされる人間関係づくりについて考えていきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・担任と子どもとの関係のよさが，子どもたちの人間関係によい影響を及ぼしている。 ・教職員の子どもに対する目線が同じであるため，親は安心感をもっている。	
	評価日 平成 30 年 2 月 22 日	評価者 学校運営協議会
独自の項目 ・担任及び預かり保育担当者との連携と指導計画の見直し ・子育て支援センターとしての役割と充実 ・地域，保護者等への情報の発信		
（取組結果を検証する）各種指標 ・預かり保育参加人数とアンケート項目；「預かり保育を喜んでいますか」 ・未就園児対象「ひよっ子クラブ」「いちご組」への参加人数 ・ホームページアクセス数と学校運営協議会，保護者の評価		
各種指標結果（１回目）		
・ほぼ全員が預かり保育へ参加，参加者は喜んで参加している。 ・「ひよっ子クラブ」は（４～７月），延べ 391 人参加。「いちご組」（月～木曜日）は毎日 16 人が登録し参加。 ・アクセス数昨年とほぼ同じ。学校運営協議会，保護者は“楽しみ”にされている。		
自己評価	分析（成果と課題） ・短時間預かり保育及び長時間預かり保育の参加者が増え，喜んで参加している。 ・個人の遊びだけでなく，内容にも変化をもたせて充実を図っている。 ・ほぼ毎日更新が，昨年同様のアクセス数となっている。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・子育て支援の取組の 1 つであることを十分理解した上で，市立幼稚園のよさをアピールし，入園者数の増加につなげていきたい。 ・市立幼稚園の教育が理解されるような更新内容の発信に心がける。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・預かり保育開始以後，入園児が増加傾向にあり，預かり保育の必要性が感じられる。 ・就労等で預かり保育を利用されている家庭は，子育てが大変だと思われるが，子育ての主体は保護者にあることを忘れないでほしい。 ・待賢幼稚園のよさを広めていくための子育て支援ボランティアには協力したい。 ・市立幼稚園に興味や関心をもち，入園したいと思ってもらえる内容にする必要がある。	
	評価日 平成29年9月20日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
・ほとんどの子どもが参加，喜んで参加83% ・「ひよっ子クラブ」は年間延べ1051人参加。「いちご組」は毎日18人が登録し参加。 ・アクセス数昨年とほぼ同じ。学校運営協議会，保護者は“楽しみ”にされている。		
自己評価	分析（成果と課題）	
	・管理職を含めて，組織的に連携を取り合う方法や時間の確保が必要である。 ・子育て支援では，学校運営協議会ボランティアが園と連携して取り組めた。	
	分析を踏まえた取組の改善	
	・内容の充実や担任との連携を重視し，研修で得たことを園内で共有し合う。 ・気軽に参加できる「ひよっ子クラブ」をめざし，名前と呼べる人間関係づくりをする。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・預かり保育が定着してきたが，保護者が園任せにだけはしないようにしてほしい。 ・誰でも受け入れてもらえる雰囲気があるため，子育て支援事業に親子が園に来やすい。 ・今後も，学校運営協議会ボランティアが子育て支援事業に関わっていけるようにしたい。 ・市立幼稚園のことが，わかりやすいものにしていく必要がある。	
	評価日 平成30年2月22日	評価者 学校運営協議会